

タイ洪水で操業停止

丸久、代替工場で縫製

15日稼働、顧客つなぎ留め

アパレルメーカーの丸久(徳島県鳴門市、平石雅浩社長)は今月中旬、洪水被害で操業が停止しているタイ・アユタヤの縫製工場の代替工場をバンコクに開設する。また、アユタヤ工場は水位が下がり始めたことから、年内の再開を目指し、発電機や水タンクなどを確保、復旧に向けた動きを加速させる。生産の谷間を可能な限りつくらないことで、顧客のつなぎ留めを図る考えだ。

被災工場、年内再開めざす

丸久の代替工場はバンコク中心部から東に約30キロにあり、浸水被害はない



代替工場はバンコク中心部から東に約30キロ離れたスワンナプーム国際空港近くで、現時点で洪水被害はない。5階建てで各フロアとも約1000平方メートル。2階から4階の3000平方メートルを2階は生地倉庫と裁断

に使用。4階で縫製する。3階は従業員用の宿舎にする。生産能力は子供服で月産約7万枚で、アユタヤ工場の5割程度。10日か

ら設備を搬入、15日に稼働する計画。この工場はアユタヤ工場操業開始当時から取引していた下請け工場で、現在は使用していないという。一方、アユタヤ工場は10月31日時点で水位は約1メートル下がった。毎日約5〜10センチ水位が下がっており、今月末にはおおむね水が引くとみられるという。

ミシンやコンピュータ類などの機械類は全損だが、新規機械をすでに発注。工業団地内の電力の復旧は見通しが立っていないため、大型の発電機をレンタルし、自家発電する。工場用水と大型の貯水タンクも購入した。アユタヤ工場が本格稼働した段階で、バンコクの代替工場は閉鎖する。

ジャナ工業団地では、ホシノなどの日本企業が浸水被害を受けている。丸久は第1期の進出で、比較的高台にあり、ホンダの工場より約3メートル高い位置にある。また、縫製工場は設備が比較的簡易なため、水が引けば再開は早いという。平石社長が10月26、29日、現地を訪れ、現状を確認。復旧計画を立てた上で、機械購入や宿舎確

保など必要な手配はすでに済ませた。平石社長は「被害事態が(日本などの顧客に)過大に伝わって、タイへの発注を控える風評被害が出ないよう、早期に復旧したい」と話している。